

平成 29 年度

危機的な状況にある言語・方言サミット (北海道大会)

愛する私たちの先祖が起伏す日頃互いに意を通ずる為に用いた多くの言語, 言い古し, 残し伝えた多くの美しい言葉, それらのものもみんな果敢なく, 亡びゆく弱きものと共に消失してしまうのでしょうか. おおそれはあまりにいたましい名残惜しい事で御座います.

(知里幸恵『アイヌ神謡集』(郷土研究社 1923 年・岩波文庫 1978 年)序より)

【日時】 平成 29 年 12 月 3 日 (日) 9:30 受付

10:00~15:35 メインプログラム

15:50~18:20 特別プログラム

【会場】 北海道大学 学術交流会館 1 階 〈小講堂〉

(北海道札幌市北区北 8 条西 5 丁目)

どなたでも御参加いただけます。 参加申込み不要・参加費無料

定員 160 名 ※ 会場が満席の場合, 御入場いただけないことがあります。

【主催・共催】 文化庁, 北海道, 北海道教育委員会, 国立国語研究所, 琉球大学,

北海道大学アイヌ・先住民研究センター, (公財)アイヌ文化振興・研究推進機構, (公社)北海道アイヌ協会

【問合せ先】 文化庁文化庁国語課 (100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2)

TEL 03-5253-4111 (内線 2841)

E-mail kokugo@mext.go.jp

【危機的な状況にある言語・方言サミットとは】

消滅の危機にある国内の言語・方言（アイヌ語、八丈方言、奄美方言、国頭方言、沖縄方言、宮古方言、八重山方言、与那国方言、東日本大震災被災地方言）に関する調査研究成果や各地域での取組事例について、広く知っていただくとともに、危機言語・方言の聞き比べや講演などを通して、文化の多様性を支える言葉の役割や価値について共に考え、危機的な状況を改善するきっかけとしようとするものです。

本サミットは、

東京2020公認文化オリンピック アワード 及び beyond2020
の認証を受けています。



©野田サトル/集英社

【メインプログラム】

- 10:00 開会式
- 10:15 基調講演「アイヌ語を現代に広げていく可能性

－『ゴールデンカムイ』をてがかりに

中川 裕 千葉大学教授

- 11:05 危機的な状況にある言語・方言の現況報告と語り披露
- 12:10 昼休み
- 13:10 危機的な状況にある言語・方言の聞き比べ
- 13:40 アイヌ語に関する取組事例報告（平取町・鶴居村）
- 14:40 協議「危機言語・方言の保存・継承と地域社会」
- 15:25 大会宣言・閉会式
- 15:35 閉会



【特別プログラム】

- 15:50 北欧サーミに関する解説
- 16:20 映画「サーミの血」上映（協力 有限会社アップリンク）
- 18:20 終了

※ 都合で日程等を変更する場合があります。

【関連催事】 アイヌ語弁論大会・イタカンロー 主催：（公財）アイヌ文化振興・研究推進機構
12月2日（土） 10:00～17:00 北ガス文化ホール（千歳市民文化センター）・中ホール